

途上国の人と共に

申し込み及び問い合わせ先: アイユーゴー事務局

住所: 590-0432 大阪府泉南郡熊取町小垣内1-10-18

電話: 0724-52-8340 FAX: 0724-52-8340 E-mail: nitta-skj@rinku.zaq.ne.jp

090-9176-7053(新田携帯)

アイユーゴー通信

Aiyugo

第 2 号

編集長 岩見 和孝
監 修 田中 正明

国際貢献の想い

アイユーゴー副代表理事

福田 新



何時しか社会人と呼ばれて久しく夫々の年齢と共に、僅か乍らも心のゆとりが持てるようになって自身を鑑み、若し出来るならば少しでも自らの持てるもので何か草の根の国際援助に尽くせたらと思っております。

お互いの交流の中で、奇しくも同じ想いを募らせていた七人の侍ならぬ七人の中老男女がおこがましくも思い切つて平成十三年十月に立ち上げたのが、アイユーゴーでした。

待望の第一歩を踏み出して

その後再三の機会を重ねるその中で、私たちの気持ちと行動への情熱を理解し参加いただいた老練と若さに満ち溢れた医師・技術者・社会経営者・教育者など各界多彩な十三人の役員の方々と共に、平成十四年四月第一回の理事会を持ち、五月に第一回の総会をなんとか無事終えて、いよいよ初年度の事業に踏み切りました。

生まれたばかりでよちよち歩きのアイユーゴーにも関わらず幸い絶大な会員の方々のご協力、意気旺盛で何事にも前向きな理事さん達の研鑽と努力と共に、幸運にも三菱銀行国際財団・日本国際協力財団・立成校成会(社)・日本青年会議所東海地区協議会、同近畿地区協議会の絶大なご理解とご協力を戴いて、策定致しました初年度事業の目的を無事果たすことが出来ました。微力乍ら恵まれない途上国の人々に生きる希望と力を与え、共に心から人間として友好の素晴らしさを分かち合えたことをご報告出来ることは何よりも感謝と喜

びに尽きます。

また初年度事業にも関わらずタイ王室基金よりアイユーゴーに対して表彰を受けたことは単に私達の活動のみならず、援助協力を戴いた各財団の方々、会員皆様の熱い国際協力への感謝の証として今後の事業の心の推進力として生かしてゆきたいと念じています。

感動を広げたい

次に私個人としてワークキャンプを勧め、参加して頂いた人達が現地での交流を通して、想いもしない体験と感動を得て、新しい生活への意欲を持ったと感想を戴きました。さらに機会あれば今年も是非友達を誘って参加したいとの申し出を受けた事は、こよなく嬉しいことで、そのお気持ちを励みとして尚一層途上国の人々とともにアイユーゴー事業の発展と結実への地道な努力を重ねて行きたいと念願しています。

二年目の想い

NGOに身を委ねて十五年、殆ど一人で行きました未開発の国々の仕事の中で、身に沁みて何時も心に思うことそれは「地球一つ人類皆同じ」と言う実感です、だのに世界の平和の意味を知りながら、なぜ権力と偏見、憎悪のなかに争いが治まらないのでしょうか。同じ人間で在り

ながら何時もその谷間で犠牲を強いられているのは貧困に喘いでいる未開発の人達です

せめてそんな人達に本当に微力ですが、この事業を通して人間として生まれた意味を少しでも味わって頂きたい、共に生きて行くことで何か喜びを分かち会いたいと願う私です。

そのためにこそガラス張り信頼されるアイユーゴーであるために、役員の方々と努力を重ね、縁の輪を何時までも続けていきますように、皆さんの末永く暖かいご理解ご援助の程お願いして年頭のご挨拶と致します。

右後(福田)、右前(新田)



完成した石積ダムの前で村人と共に落ち葉が入らないようにシートがかけられている。

チエンマイ県ムアンガ村にて

ボランティア精神って?

アイユーゴー代表理事
新田 幸夫

本会が設立されて、はや一年半を迎えるようになっています。

この短い間にたくさんの方々との出会いを経験させていただきました。そのたびに、「ボランティア活動はたいへんですね。」と声をかけられました。そして、「私にできることがあれば、なんでもします。おつしやってくださいね。」と頼もしい言葉もいただきました。しかし、ボランティアという言葉は、実に難しい言葉であります。

一時的援助は苦しさを増す

生活に困った人に対して、一時的に援助をすることはたやすいものです。その当座は助かるかもしれないから。しかし、それがなくなる、また苦しくなるものです。

品物を寄付させていただくことも場合により必要ですが、さらに、貧しい人たちが働くことができる管理システムを作り、その中で、かれらが、何らかのかかわりを持つよう工夫するほうがその人たちの救いとなるのではなからうかと考えるのです。

できれば現場へ

ボランティアという活動のなかには、いろいろな側面が含まれています。まず、困った人に対して、何か自分にできることをするという充実感(おこりや自己満足ではなく)、そして、どのようにボランティアをしようかと、それって何だろうと必死に考えることによって得られる自己開発もあります。充実感を得たり、自己開発を進めるための最もいい方法のひとつは、現場、つまり困っている人たちの懐(ふところ)のなかに飛び込んでいくことではないかと思えます。

なぜ、懐に飛び込まなくてはならないのでしょうか。この種の問題は、現地および困っている人たちの状況が絶え間なく変化しているから、いくら勉強しても、それは机の上の勉強であって、実際は違わずです。困った人たちがどんなことをしているのか、どういう問題があるのか、現地や現場に行かなければわからないと思います。

アイユーゴー理事は現場主義

困った人たちのことを、学校で学んだり、新聞や雑誌で読んだり、テレビで見るといふこともできません。しかし、もしもできる環境にいるなら、現場へできるだけ多くの人が行くべきだと考えます。アイユーゴーでは、理事全員が一度は現場へ行く

ことになっている。ワークキャンプも企画しています。

そのような考えのもとに、まず、ボランティアをするというのなら、自分の世界から出てみよう、と思いつつ、私は、この一年と六カ月を送ってきました。

設立一年目の事業計画もほぼ達成出来ました。これも一重に「理解頂いた会員、助成財団、各理事の皆様方のご協力の賜ものと感謝致しております。」

設立日も浅く実績も少ないアイユーゴーを育てるためにも会員、理事の皆様方の「協力とご支援を頂きまして益々発展するように頑張りたいと思っています。」

ワークキャンプ報告

アイユーゴーは昨年十月、十一月にラオスに於いてワークキャンプを実施しました。

参加者の方々より感想文を頂戴しましたので、別紙にて、皆様にご紹介させていただきます。

(1) まるごと実感！ラオス体験

ホームステイによる交流と小学校建設ボランティア
十月十二日～十七日
参加者 七名

ワークキャンプ副団長 アイユーゴー理事

北谷 成人

昨年、ラオス人民共和国メコン川中洲にあるドンナムロイ村で「まるごと実感！ラオス体験」のワークキャンプを実施しました。

今回のワークキャンプは、アイユーゴー理事三名、一般参加四名という小グループでした。新田代表の当初からの主張通り、現地の人々との関わりができるだけ時間を割ることでアイユーゴーの活動を理解してもらおうという目標は、ひとまず達成されたのではないかと思います。

ボランティア活動をする時、常に「相手」を見つめることが大事だと

思っています。とかく相手のことをそつちのけにして、自分の都合でボランティア活動をしてしまっている例を時々目にします。そういう意味で、ドンナムロイ村での滞在は短時間ではあったものの、村の人々としっかり見つめ合えたという実感を持っています。

(参加者の方々の手記(別紙)を見ても、読み取れると思います) もう一つ今回良かったと思う点は、現地の人々が切実に必要としている小学校の新校舎を現地の人々との協働作業の中で完成させることができたことです。

我々が資金を提供して、彼等が作ったわけでも、我々だけで作って彼等に差し上げたわけでもないことが、大きな意味を持つと思えます。

最後に個人的感想を一つ。それは大きな大地とメコンに育まれたラオスの人々は、実は豊かな生活を送っているということでした。一方、自然の中でわれわれ文明人は、なんと非力なことか。もつとも、あのメコンに沈む夕陽を毎日見ている人々に太刀打ちできないでしょうが…

(2) 未来へ架けよう！心の橋

ホームステイによる交流と橋建設のボランティア



未来へ架けよう！心の橋

橋造りに励む新田代表
メイポーシー村にて

期間 十一月十四日～十八日

参加者 十四名

ワークキャンプ団長

アイヌーゴー理事

塚田 充宏

昨年、十一月十四日より十九日の間までの日程で、ラオス人民民主共和国・ビエンカム郡メイポーシー村において、若者たちとの交流を通して、彼らの地域開発のためのワークキャンプを実施いたしました。

この村の住民は、自分たちの耕作地のほとんどを川の対岸に所有しているため、渡る方法は、小さな船しかありません。ワークキャンプでの作業中、私はその船から落とされました。それぐらい小さな船を、今、利用しています。

この村人は、以前、つり橋を自分で作りましたが、完成した年、雨季の大水で流されてしまった経験をもっています。その後は資金的・技術的な事情などで橋を架けられずに今日までできてしまいました。

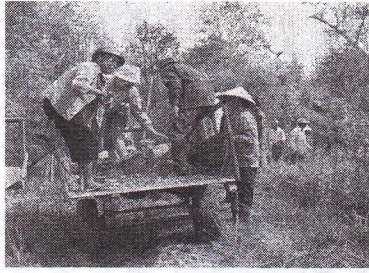
自分たちの手で未来への橋を
今回の訪問で、橋を架けるための資金協力を行うにあたり、次の項目を決めました。

(1) 毎月作業状況を我々に報告すること。

(2) 五月三十一日までに完成させること。

契約書を作成し、現地住民と参加者の皆さんとで、橋の基礎のための穴を掘る作業を行ってききました。

その後の報告では天候等の影響により工程的に遅れておりますが、粘り強く声をかけ続けて、自分達の手で橋を完成させ、併せて自分達の未来に橋をかけていただきま



現地の住民による橋建設風景

メイポーシー村にて

アイヌーゴー

平成十四年度

事業報告

(1) 図書館建設

(タイ王国・メホンソーン県・タムロット村)

タイ王国で最も貧しい北部のメホンソーン県において、タイ王室財団、ならびに日本青年会議所東海地区協議会と協力してプロジェクトを行いました。王室財団はとても貧しい

小中高生たちのために全寮制の学校を建設し、本会は東海協議会の図書館建設をコーディネートしました。ここでの図書館建設は、麻薬の密売や栽培をして生計を立てている大人たちが多い環境から、子どもたちを隔離し、たくさんの本を読んでもらい、世界に目を向け、実社会に出て活躍できるように、しっかりとした教育の場を与えるためのプロジェクトです。

(2) 小学校建設

(ラオス人民民主共和国・ドンナムロイ村、ナーペン村)

メコン川の中洲にある村で、小学校を建設しました。数年前に崩壊寸前の学校の建て直しをしようとして

BとOGたちが声をかけあつて、作り始めましたが、柱と屋根しかできまませんでした。五つの教室には壁の仕切りがないため授業がやりにくい状況でした。そこで本会は、十月に壁、廊下などの建設を支援し、完成しました。

また、別の村では、日本青年会議所近畿地区協議会の人たちをコー

ディネットして、教室が足りなくて授業を受けることができなかった子供たちのために、一教室を建て増しをして、さらに、井戸、トイレを造成しました。

(3) 牛銀行開設

(ラオス人民民主共和国・ドンナムロイ村、ナーペン村)

本会は、ラオスで小学校を作ると、必ず、牛銀行を開設します。本会が行う牛銀行というのは、村で田畑のない最も貧しい人たちにメス牛を授け、その村人に牛の世話をしていただきます。そして、生まれてきた牛を売ったときにもら

つたお金の半分を、村に渡し、学校が壊れたときなどに使ってもらいます。また、残りの半分はその村人のものになります。こういうやり方を「牛銀行」と言います。小学校の校舎を管理するためと貧しい村人ががんばって生活できるための方法と考えています。

(4) 橋建設

(ラオス人民民主共和国・ポーシー村)

村の三分の二の土地が、数年使われていないところがありました。橋がなかったからです。数年前に橋を作ったのですが、大雨で流されました。村人たちは、この三分

の二の土地があればどれだけお米や野菜が作れるかと思いい悩んでいました。そこで、日本人十四名が

この村を訪ね、いっしょに橋建設に向けて努力しました。五月に完成予定です。

(5) 貯水(石積)ダム

(タイ王国・ムアンガ村)

タイ北部にあるチャンマイ県の山ろくの村に、貯水ダムを作りました。この山の中腹に住む少数民族の人たちが、野菜を作るのに農業を使っているため、同じ水源の水を使う山ろくの村人たちは、食べたものをどしたり、体に湿疹(いっしん)がでたり、体の調子がおかしくなりました。そこで緊急の方法として、新しい水源を見つけて、貯水ダムを作り、各家庭に送水することにしました。長期的には、農業を使わない農法の指導を勧める予定です。



アイヌーゴー

平成十五年度

事業計画

(1) 農業センター建設

(タイ王国・メホンソン県・ムアンガ村)

タイ北部に農業使用の農法を有機農法に変えるために、農業センターを建設します。

(2) 小学校寮建設

(タイ王国・チェンマイ県・ヤンゲオ村)

学校に通えない、山奥に住む子供たちのために寮を建設します。

(3) 小学校建設

(ラオス人民民主共和国・サバナケート県・フォンソンホン村)

今にも崩壊しそうな校舎の建て替えを行います。

(4) ワークキャンプ予定

- ① タイ王国・メホンソン県
- ② タイ王国・チェンマイ県
- ③ ラオス人民民主共和国・サバナケート県
- ④ ベトナム社会主義共和国・ダラート県



アイユーゴーと

歩みをとともに!

会員募集中

私たちは、一日一ドル以下で生活をしている人たちの住む村を訪れて、協力をしています。

小学校の教室を一部屋建設するのに、約60万円かかります。途上国では小学校の数が足りません。たとえば、ラオスでは約六・七千の小学校が必要ですが、実際にはおよそ二千校しかありません。したがって、小学校で義務教育を受けることの出来る子供はほぼ3割となります。

また、本会では田畑も働き口もなく、小学校にいけない子供のいる家庭に牝牛を供与します。牝牛は一頭およそ五万円します。その牝牛が子牛を生み、成牛まで育ちますと、彼らはその牛を売ります。売ったときに入のお金の半分がその村人に、また半分が小学校などの管理のために村会が管理します。

義務教育は人が人として生きていくために欠かせない教育です。皆様のご協力で、一人でも多くの子供小学校にいけるよう頑張りたいと思います。ご協力お願いいたします。

会費のご案内

(個人)

正会員費

一口 12,000円

賛助会員費

一口 3,000円

(法人)

正会員費

一口 120,000円

賛助会員費

一口 30,000円

私たちの会の目的に賛同し、ご入会をご希望される方、ご質問のおりの方方は、アイユーゴー事務局までご連絡ください。

個人・法人会員の皆様へ

おれとお願ひ

アイユーゴーの活動にご理解、ご協力頂きありがとうございます。

昨年は皆様のご支援によりほぼ事業計画通り達成出来たことに感謝致します。

本年も更なる発展を目指し頑張つて参りますので、引き続き会員の皆様の更新手続きを宜しくお願ひ

致します。

振込用紙を送付致します

宜しくお願ひ致します。

事務所開設のご案内

昨年、十月に待望のアイユーゴー事務所を開設しました。

お近くにお寄りの際にはお気軽にお立ち寄りください。

「住所」

〒590-0432

大阪府泉南郡小堀内(オガイト)

一十一十八

「電話・ファックス」

0724-52-8340

探しています!

事務所ではパソコン・石油ストーブ、郵便受け、など探しています。よろしければ、ご寄付ください。



編集後記

第一号発刊時、第二号は2月にと予定していましたが、大変遅くなり、編集スタッフ一同申し訳なく思っております。

第二号の記事内容は第一号と違い、ワークキャンプに参加された方々の声を主体にした記事でまとめました。

体験談レポートは大変参考になる事が多く、今後も出来る限りワークキャンプの記事を主にしたいと思っております。

是非、ワークキャンプにご参加いただき、体験報告をご投稿お願い申し上げます。

三月三十日の理事会で会員増強の決議があり、理事、会員の皆様には大変ご苦勞と思いますが、ご理解ご協力お願いします。

田中 正明